

## 新任医師紹介

内科医師 藤田 操

こんにちは、内科医師の藤田操です。専門は消化器科ですが、むしろ総合診療科に近いかもしれません。

久米島に来る前は、福島県にある小さな村の病院で働いていました。5年前の大震災と原発事故で、福島は大混乱になりました。放射能汚染のため、この先何十年も人が住めなくなった町や線量が下がってきて少しずつ人が戻っている地域、あるいは今だ線量が高いのに無理やり帰還させられようとしている地域など、その混乱と人々の苦悩は続いています。

そんな中、思いっきり外で遊べない福島の子供たちの保養を受け入れたいと久米島の方々には、心から感謝しています。私も何度かその保養施設「球美の里」にボランティアとして来ました。そしてだんだん久米島の魅力に取りつかれてしまったようです。

久米島の皆さんへの恩返しのもりで移住してきましたが、慣れない島での生活、何かと困ってしまうこともあるかと思いますが、その時は助けてください。

内科医師 小西 隆行  
小児科 小西 恭子

1月から勤務しています。小西隆行、小西恭子と申します。神奈川県横浜市からやってきました。二人とももとは家庭医として医師のキャリアをはじめましたが、その後それぞれ外科、小児科に分かれ市中病院で勤務していました。専門医集団の中で仕事をしながら、もう一度包括的な医療に携わりたいの思いから、家族会議の末(?)久米島にお世話になることになりました。小児科に関しては前任の渡辺先生が復帰されたら内科にシフトする予定です。

こちらに越して来て5歳、3歳0歳の3人の娘達は海岸や原っぱで大いに遊び、真っ黒になって駆け回っています。(正確には一番下はまだ歩けません(笑))。バツヤやドカリを相手に遊ぶ子供たちのキラキラした笑顔を見るたびに、来てよかったなとほんわかする日々です。

まだ不慣れではありますが、少しでも島の皆さんのお役に立てれば幸いです。小さなことでもご相談ください。

## 自閉症の「文化」を理解しよう

発達障がいを知ろうシリーズ⑧

小児科医 渡邊 幸

自閉症スペクトラム(ASD)の大きな特性に「対人関係の困難さ」があるというお話をしましたが、これは脳の中の「認知」する機能が人と違うために起こります。「認知」というのは簡単にいうと「物事のとらえ方」のことです。例えば、

私たちは人と会話している時に実は言葉そのものよりも相手の「表情」や「話し方」から多くの情報を得て、相手の感情や言いたい事を理解しています。また、無意識のうちに周囲の状況を見ながら、自分の行動を決めたりもします。

ASDの人たちにはこのような「言葉」以外の情報から、物事を理解することが非常に困難です。よって相手の話す「言葉」のみをたよりに理解していくため、ユーモアや比喩が通じなかったり、誤った捉え方をしたりして会話に大変苦労します。例えば先生に「まっすぐ帰宅しましょう」といわれて、「僕のうちは曲がらないと帰れません」と本気で言ってしまったりします。ですので、言葉以外の情報を必要としない、手紙やメールでのやりとりの方が得意といわれます。

また、場の状況等から情報をえることが困難なため、場にそぐわない態度、いわゆる「空気が読めない」と思われる様な行動をとってしまったたり、正直すぎて

相手に不快な思いをさせてしまうこともあります。

しかしこの認知機能の違いは「文化」の違いのようなものであり、どちらが良い・悪い、というようなものではありません。ただ少数派であるASDの人たちは「普通」の人のルールに合わせて苦労しながら生活しているのです。実際ASDの人たち同士では会話ややりとりが非常に楽であると言われます。

私たちも全く知らない異国で生活することを考えてみれば、様々な壁にぶつかるだろうということは理解できると思えます。またそんな中、理解し手助けしようとしてくれる人がいたら本当に安心します。ですので、より多くの人たちがASDの人たちの事を理解していき、彼らは安心して過ごせることができるということを知っていただきたいと思えます。

〈久米島町の発達障がい相談窓口〉

・親子支援事業：役場福祉課(担当 新垣) 985-7124

・小児科外来：公立久米島病院 小児科(担当 渡邊)

火曜・金曜の午後